



2012年、新しい年がスタートしました。世界のリーダーが大幅に入山する年。日本も変われるか、それとも停滞を続けるか、大きな分かれ目、節目の年だと思います。昨年2011年は日本にとって大きな試練、そして政治への失望が大きかった年でした。大きな責任と預かる人間として深くお詫び申し上げます。何が問題でどうすべきだったのか、私自身は何を考え、どう行動したのか、今の政府に何が足りず、これから日本をどう描くべきなのか、2011年、報道頂いて、事業や考え方などながら、今後の日本を展望したいと思います。

初めて赤字覚悟で東京国政報告会を開催させて頂いたのは昨年2月。訴えたかったのは、まず「政治家が身を切る覚悟」。とり上げて下さったのは星浩さんでした。

23 オピニオン

1

朝日新聞(2011年2月19日付)より

記者有論

たいていの政治家のパーティは1枚2万円で、参加者の数倍の券が売りさばかれる。そんな永田町の常識に反して、民主党の若手衆院議員小川淳也氏(39)が赤字覚悟の1枚5千円で開くというので、のぞいてみた。国会近くの会場には300人ほどが出席。小川氏が熱弁をふるつた。「日本改革案」が興味深いので紹介したい。「国民1割、公務員2割、政治家3割」の痛みを分かち合おうというのだ。

まず、国民。政府の一般会計と特別会計を合わせた総予算は約200兆円。民主党は2009年の総選挙で「総予算の1割の約20兆円は組み替えできる」と訴えた。その約束はそのまま守る。ただ、事業仕分けなどで生み出される行政のムダ削減だけでは、20兆円には遠く及ばないからマニフェスト(政権公約)の主要政策も大胆に見直す。子ども手当の支給には所得制限を導入。高速道路の無料化も先送りする。年金も高額所得者は支給額を減らす。子ども手当の削減には届かない。そのため、「2割」には届かない。そのため、当面は人事院勧告を大きく上回る削減を続ける。人員減らしも進める。そして、国會議員。議員費や秘書給与などを合わせた衆参両院の経費は総額1400億円。定数削減と



ある歳出削減案

政治家が身を切る覚悟を

ある歳出削減案について、政治家が身を切る覚悟を述べています。小川淳也氏は、赤字覚悟で1枚5千円で開く会議を開いたことを紹介。その際に提出された「日本改革案」では、国民1割、公務員2割、政治家3割の痛みを分かち合おうとしている。この案では、年金の高額所得者に対する支給額を減らすとともに、高速道路の無料化を先送りするなど、事業仕分けによる行政のムダ削減が実現されています。

一方で、小川氏は、この改革案が実現するためには、財政再建が大きく進み、社会保障制度の削減や消費増税の法案を一括で国会に提出し与野党の話し合いに入る。もちろん、増税の前には衆院の解散・総選挙で国民の信を問う――。

小川氏は、こうした歳出削減と並行して消費税率を引き上げるべきだと考えている。それも税率15%、20%などと数通りに分け、それに応じた社会保障の中身も提示する。歳出削減や消費増税の法案を一括で国会に提出し与野党の話し合いに入る。もちろん、増税の前には衆院の解散・総選挙で国民の信を問う――。

説得力のある改革案だ。実現すれば財政再建が大きく進み、社会保障も格段に整備されるに違いない。ところが、こうした大胆な改革論議がいつこうに進まないのが現実だ。民主党は小沢一郎元代表の政治資金問題で内紛を抱え、結束して政策推進に取り組めない。自民党は「解散しろ」の一点張りで、与野党協議のめどは立たない。衆参ねじれ国会での法案の成立はままならない。そんな事情が重なって、政治が重苦しく停滞している。



編集委員
ほし 浩

この改革案には全国、多くの国会議員から反響をいたしました。これは一気に理解者を増やし、実現に向けて弾みをつければ、私は党内400名余りの全国議員に手紙を送り意見を求めました。返信を頂いたのは約100名。ほとんどが賛成でした。この勢いを何とか具体案に...そう思って来年の3月11日。東日本大震災。未曾有の大災害。これより全てに優先するのは震災対策。今も大きな宿題を抱えています。しかし、かろうじて2011年4月~9月、国会議員は収入の3割をカットして、被災地支援に充てました。